

「男性ボランティア会議」 20年の歩み

過去の記録からエポック的なものを取り出してみました。
20年の出来事を速足で振り返ってみましょう。

○「だんぼら」事始め

（「だんぼら」は男性ボランティア会議の略称であり、愛称でもある）

平成5年9月28日 第1回男性ボランティアの集いを開催

和泉弥須雄さんが男性だけのボランティアグループを立ち上げようと呼びかけ、主にボランティア経験者を中心に数人が集まり「男性ボランティアの集い」が誕生した。

平成6年4月8日 「男性ボランティア会議」設立総会開催

和泉弥須雄さんが代表に就任した。

何度か会合を重ね、この間ボランティアセンターの後押しもあって、名称も「男性ボランティア会議」と決定し、当時市役所の別館にあったボランティアセンター事務室の脇の1室で設立総会が開かれたのです、と和泉さんは語る。ちなみに当時の会員のうち、和泉さんを含む4人が、20年を経た現在も会員名簿に名を連ねている。

○「だんぼら」揺籃期

平成6年4月21日 第1回「ボランティアサロン多摩」開催

早速、「だんぼら」が活動を開始

平成7年6月10日 ボランティア入門講座 障がい別体験学習 実施

多くの人にボランティア活動に参加してほしいとの願いを込めて実施しました。私たちは大いに燃えていましたねと、和泉さんの言

平成7年8月15日 夏休み体験学習 車いす体験指導

当会の最も主要な活動の一つである車いす体験指導の初回であった。

平成7年8月28日 はづきまつり（現、永山フェスティバル）参加

これをきっかけに、さまざまなイベントや行政、他団体の行事に積極的に参加することになった。

平成8年3月23日 障がい者スポーツ大会 介助参加

障がい者支援のさきがけである。

平成 11 年 2 月 27 日 福祉体験学習テキスト「ささえあい」完成
平成 11 年 6 月 19 日 設立 5 周年記念誌「われら熟年」発行

○「だんぼら」の活動もいよいよ本格化

平成 11 年 7 月 5 日 西落合小 紙ヒコーキ飛ばせ大会
子供たちとの交流（世代間交流）の初回

平成 11 年 8 月 6 日 創立 5 周年記念パーティ（サンピア多摩）

平成 11 年 10 月 16 日 福祉まつり（パソコンゲーム・バイオリズム）
参加初回

平成 11 年 11 月 16 日 パソコン勉強会 Word 初級実施
初回、当時当会の主要な活動となった。

平成 13 年 9 月 27 日 多摩養護学校（現在は多摩桜の丘学園）社会見学支援
初回

平成 14 年 7 月 3 日 研修旅行 箱根湯本
初回、会員相互の技能向上に限らず、親睦も大事、現在も続く

平成 14 年 10 月 16 日 ひとときの和 大松台小
初回、現在も年に 2 校で実施している

平成 15 年 5 月 23 日 つくし作業所 社会体験支援：初回

平成 15 年 7 月 22 日 多摩消防署 普通救命講習：初回

平成 15 年 9 月から 5 回 多摩第 3 小 3 年生ふれあいタイム「昔遊び」
初回 現在も年 5 回実施されている。

平成 16 年 1 月 7 日から 聖の郷、白楽荘など高幡不動初詣
初回、以降数年各老人施設では初詣やお花見が盛んに行われた。

平成 16 年 6 月 28 日 設立 10 周年記念パーティ（於サンピア多摩）
初代代表 和泉弥須雄さんが辞任し、鈴木幸夫さんが 2 代目代表に就任した。会員数も 20 名を越して、結成 10 年で会の基盤も充実した。
10 周年記念誌「われら熟年フェーズ 2」を発行

○そしてこの10年

平成16年10月23日 ボランティア育成事業（昭和記念公園）初回
公共交通機関を利用して「車いす」で都内見学を行なうというユニークな企画、「車いすで街に出よう」。

ボランティアセンターからの助成を得て現在も実施している。

平成17年5月25、26日 アートひまわり宿泊訓練（茨城鶉の岬）
初回、つくし作業所、視障協などで宿泊研修の要請は毎年あったが、当会も会員の高齢化から次第に負担になっているのが現状である。

平成17年7月26日 永山分室にボランティア共用パソコンを設置
各団体やサークルの便宜のため、当会が主体となって設置した。
しかし平成24年10月ボランティアセンター永山分室事務所が閉鎖されたことに伴い、撤去した。

平成17年8月23日から 災害ボランティア訓練に参加
初回、震災などの経験から重視されてきた。

平成17年11月7日 福祉まつりが東永山複合施設で開かれ、車いす体験、昔遊び紹介コーナーブースを設置。翌年には竹製品の販売も行なうようになる。（H19には、福祉バザーと改称）

平成17年11月19日 国土交通省主催・交通バリアフリー教室
多摩モノレール多摩センター駅構内にて実施。
「関東地区で3か所実施されたうちのひとつで社協を通じて要請があった。」と講師をつとめた鈴木さんが語る

平成18年1月25日 「ささえあい」改定版が完成
平成11年に発行された旧版は、基礎編で、会員間で実践編を希望する声が出ていた。これまでの体験学習経験をもとに、鈴木代表中心に、約6カ月をかけて作成。印刷・製本まで自分たちで行ない、会員の連帯感も生まれた。

平成18年5月3日から5日 多摩センターこどもまつり遊び体験村
初回。竹うま、竹ぽっくり、コマ回し、竹とんぼ、竹笛など。
現在まで毎年、多くのこどもたちの人気を集めている主要な行事となっている。

平成18年5月23日から 多摩市選管より竹とんぼ1万本の注文を受け、第2つくし作業所2階を作業場として借り受け、作業を開始する。

名付けて「よろず大作戦」

平成 18 年 10 月 10 日 視障協、秋の研修 初回

視障協への支援はこの後毎年実施されている

平成 18 年 11 月 18 日 会員の親睦と健康増進を兼ねて悠々隊発足。

「郊外歩き、街歩き」を実施する。第 1 回は高尾山、以後毎年数回。
現在まで会員のレクリエーション行事として定着している。

平成 19 年 2 月 26 日 第 2 つくし作業所を通じ、選管に竹とんぼ 7,335 本を
納入

平成 19 年 3 月 4 日 地域ふれあいフォーラム・遊びふれあい広場参加
初回

平成 19 年 3 月 18 日 よろず大作戦終了をうけて、東永山複合施設の 1 室を
借り受け、竹教室開設。材料置き場・工具棚・工作台などを整備し、
作業場として使用する。以後、竹細工は当会活動の主要な資産・財源
となり、さまざまな形で、多く活用されている。

平成 19 年 10 月 15 日 車いす整備ボランティア

社協所有の車いすは、地域などで講習に使われているが整備不良で、
困ることがある。ボランティアセンターからの依頼で、定期的に整備
することとなった。

平成 22 年 12 月 4 日 市民活動きっかけづくり事業講師

竹とんぼをこどもたちに伝承

平成 23 年 2 月 26 日 総合福祉センターで開催されるボランティア交流会が
ボランティアまつりと改称し、「竹トンボを作ろう」体験コーナーが
はじまる。(車いす体験、パソコン手相診断に加えて)

平成 23 年 3 月 31 日 東日本震災救援物資受付作業に参加

震災への直接参加は会としては無かったが、個人ボランティアとして
石巻へ出向いた会員もいる。